

- | | | | | |
|---|--|--|--|--|
| <p>(1) 楚（の国）</p> <p>(2) 盾と矛とを売る者</p> <p>(3) そのほこをほめていわく</p> <p>(4) ① そのひとたうことあたわざるなり
② 突き通せない (い)堅い
③ 突き通せない (い)堅い
④ 突き通せるものはない
⑤ 突き通せるものはない</p> <p>(5) 1 盾と矛とを売る者
2 イ
3 別解：鋭いから何でも突き通す。〈12字〉</p> | | | | |
| <p>解説</p> | <p>【2】</p> | <p>【2】</p> | <p>【2】</p> | <p>【2】</p> |
| <p>(1) (1) 直前に「楚人」とある。「楚人」とは、楚の国の人意味。</p> <p>(2) 1 直後に「吾が盾の堅きこと、……」とあるので、「之」は盾。</p> <p>2 「誉めて」も「曰はく」も主語は「盾と矛とを鬻ぐ者」つまり、「盾と矛とを売る者」である。現代語訳の中から抜き出すことに注意する。</p> <p>(3) ① 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に直すので、「は」を「わ」に直す。「ほこ」の「ほ」は語頭なので直さない。</p> <p>② ハ行の音が二つ含まれている。「ふ」を「う」、「は」を「わ」に直す。</p> <p>誰が誰に言っている言葉かをつかむ。「ある人」が「盾と矛とを売る者」に話している言葉なので、「あなた」とは、「盾と矛とを売る者」である。</p> <p>—— 線④は、盾が最高に堅いことを自慢する内容。これと同じ意味になるようにする。「突き通せるものはない」は「突き通せない」ということ。</p> | <p>(1) (1) 直前に「楚人」とある。「楚人」とは、楚の国の人意味。</p> <p>(2) 1 直後に「吾が盾の堅きこと、……」とあるので、「之」は盾。</p> <p>2 「誉めて」も「曰はく」も主語は「盾と矛とを鬻ぐ者」、つまり、「盾と矛とを売る者」である。現代語訳の中から抜き出すことに注意する。</p> <p>(3) ① 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に直すので、「は」を「わ」に直す。「ほこ」の「ほ」は語頭なので直さない。</p> <p>② ハ行の音が二つ含まれている。「ふ」を「う」、「は」を「わ」に直す。</p> <p>誰が誰に言っている言葉かをつかむ。「ある人」が「盾と矛とを売る者」に話している言葉なので、「あなた」とは、「盾と矛とを売る者」である。</p> <p>—— 線④は、盾が最高に堅いことを自慢する内容。これと同じ意味になるようにする。「突き通せるものはない」は「突き通せない」ということ。</p> | <p>(1) (1) 直前に「楚人」とある。「楚人」とは、楚の国の人意味。</p> <p>(2) 1 直後に「吾が盾の堅きこと、……」とあるので、「之」は盾。</p> <p>2 「誉めて」も「曰はく」も主語は「盾と矛とを鬻ぐ者」、つまり、「盾と矛とを売る者」である。現代語訳の中から抜き出すことに注意する。</p> <p>(3) ① 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に直すので、「は」を「わ」に直す。「ほこ」の「ほ」は語頭なので直さない。</p> <p>② ハ行の音が二つ含まれている。「ふ」を「う」、「は」を「わ」に直す。</p> <p>誰が誰に言っている言葉かをつかむ。「ある人」が「盾と矛とを売る者」に話している言葉なので、「あなた」とは、「盾と矛とを売る者」である。</p> <p>—— 線④は、盾が最高に堅いことを自慢する内容。これと同じ意味になるようにする。「突き通せるものはない」は「突き通せない」ということ。</p> | <p>(1) (1) 直前に「楚人」とある。「楚人」とは、楚の国の人意味。</p> <p>(2) 1 直後に「吾が盾の堅きこと、……」とあるので、「之」は盾。</p> <p>2 「誉めて」も「曰はく」も主語は「盾と矛とを鬻ぐ者」、つまり、「盾と矛とを売る者」である。現代語訳の中から抜き出すことに注意する。</p> <p>(3) ① 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に直すので、「は」を「わ」に直す。「ほこ」の「ほ」は語頭なので直さない。</p> <p>② ハ行の音が二つ含まれている。「ふ」を「う」、「は」を「わ」に直す。</p> <p>誰が誰に言っている言葉かをつかむ。「ある人」が「盾と矛とを売る者」に話している言葉なので、「あなた」とは、「盾と矛とを売る者」である。</p> <p>—— 線④は、盾が最高に堅いことを自慢する内容。これと同じ意味になるようにする。「突き通せるものはない」は「突き通せない」ということ。</p> | <p>(1) (1) 直前に「楚人」とある。「楚人」とは、楚の国の人意味。</p> <p>(2) 1 直後に「吾が盾の堅きこと、……」とあるので、「之」は盾。</p> <p>2 「誉めて」も「曰はく」も主語は「盾と矛とを鬻ぐ者」、つまり、「盾と矛とを売る者」である。現代語訳の中から抜き出すことに注意する。</p> <p>(3) ① 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に直すので、「は」を「わ」に直す。「ほこ」の「ほ」は語頭なので直さない。</p> <p>② ハ行の音が二つ含まれている。「ふ」を「う」、「は」を「わ」に直す。</p> <p>誰が誰に言っている言葉かをつかむ。「ある人」が「盾と矛とを売る者」に話している言葉なので、「あなた」とは、「盾と矛とを売る者」である。</p> <p>—— 線④は、盾が最高に堅いことを自慢する内容。これと同じ意味になるようにする。「突き通せるものはない」は「突き通せない」ということ。</p> |

(6) 矛を自慢している部分は、「吾が矛の利きこと、物に於いて陥さざる無^おきなり。」(5~6行目)である。「物に於いて陥さざる無^おきなり」は「どんなもの

でも突き通さないものはない」と二重否定の形で、言い換えると、どんなものでも笑き通すということである。

記述ポイント 「鋭いこと」と「何でも突き通す」の二点をまとめる。

誤答例 突き通さないものはない。〈12字〉

「盾と矛」とを売る者の会話の中に、「私」とあり、「ある人」の「盾と矛

「とを売る者」に対する問い合わせに、「あなた」とあるので、「ある人」以外は同一人物。

2 どんなものでも突き通せない盾と、どんなものでも突き通せる矛は、同時に存在することはできないため、つじつまが合わないとということになる。こ

のことを、「ある人」の質問で言い当たられたため、「盾と矛とを売る者」は答える。「二二八」といふ。

(8) A 「誉」にレ点が付いているので、まず、このすぐ下の「之」を読んで「誉」を読むことができるなかった。

B 「莫ニ」に二点が付いてゐるので、×の下つて「モニ」と読む。

吉川に二本の筆で、この「一子・前附」を続けて読んで「莫」に返って読む。最後に「也（なり）」を読む。

(9) ここでの「之」は「の」と読む。助詞なので、漢字のままでなく平仮名に直して書く。「也(なり)」も断定を表す助動詞なので、同様に平仮名で書く。

(1) 「作文を推敲する。」などのように使う。表現を吟味して練り直すことである。

（は）一十分透刻しても二十分透刻しても、透刻には変わりない。五十歩百歩だ。」

あまりよくないことについて使われる。

- | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----------------------------|----------------------------------|------------------|-----|-------------------------|------|--------------------------------|---------------------------------|----------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| (4) | (3) | (2) | (1) | (10) | (9) | (8) | (7) | (6) | (5) | (4) | (3) | (2) | (1) |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | a たて |
| 漁夫の利 | イ | ウ | ア | 莫二 | 誉レ | 之ヲ | しのほこ | しのたて | イ | 例盾をほめて言うには | b ほこ | 或ひと | 売る |
| 2 | 2 | エ | | 能ク | ハク | 曰 | しのほこをもつて、しのたてをとおさば、いかん。 | 2 | 例私の盾はどんなものでも突き通せないほど堅いのだ。〈24字〉 | 例私の盾はとても堅いので、何ものも突き通せないのだ。〈25字〉 | 例吾が矛の利きこと、物に於いて陥ざざる無きなり。〔〕 | 例私の盾はとても堅いので、何ものも突き通せないのだ。〈25字〉 | |
| 朝三暮四 | | | 例一步も引けない状態で、必死になつて物事に当たること。 | 例物事のつじつまが合つていなことを言い当てられたから。〈26字〉 | 例物事のつじつまが合わないこと。 | 矛盾 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 例盾をほめて言うには |
| | | | 例余分なもの。 | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 例私の盾はどんなものでも突き通せないほど堅いのだ。〈24字〉 |

「利きこと」とは「鋭いこと」という意味なので、この意味で「利」が使われている熟語は、イの「銳利」。「銳」も「利」も鋭くよく切れることを表す。

例 盾をほめて言うには
例 私の盾はどんなものでも突き通せないほど堅いのだ。〈24字〉
別解 私の盾はとても堅いので、何ものも突き通せないのだ。〈25字〉
（二）吾が矛の利きこと、物に於いて陥ざざる無きなり。〈二〉

(8) 2・(2)で見たように、「盾と矛とを鬻ぐ者」の盾と矛の自慢話を受けて、「或ひ」とが、「何でも突き通せる鋭い矛」で、「何も突き通せないほど堅い盾」を突いたらどうなるのかと尋ねている。「何如」は、「どうなるか」という意味である。

自分の持つていてる盾と矛についての自慢「何も突き通せないほど堅い盾と、何でも突き通せる鋭い矛」

併ても空き進せる鋤の矛々か両立しないこと、つまり、つじつまが合わないことを「或ひと」と指摘されたからである。

「……」の餘の返りなし質問をしたかのように受け取れるので、「その人」が答えることができない理由が分かるようになる。)

(9) 「矛」と「盾」、「矛盾」と書いて「むじゅん」と読み、物事のつじつまが合
つまつまにならぬ。

(10) わないことをいう
1 書き下し文での漢字の順番は「之→誓→曰」である。訓読文の漢字の順

番は「誉→之→曰」である。この訓読文を書き下し文のとおりに読むには、「誉

2 書き下し文での漢字の順番は、「能→陥→莫→也」である。訓読文の漢字と「之」を逆に読みよい。したがって、「營」にレ点を付ける。

の順番は、「莫→能→陷→也」である。この訓読文を書き下し文とのおりに
讀むには、「莫能の**二**と、能の**一**と、陷の**二**と、也の**一**と、」二と、一と、二と、一と、

読むには、「罷陥」の二字を読んだ後に「莫」を読む。したがって、二点を用いればよい。「陥」に一点が付いているので、「莫」に二点を付ける。

(2) 1 「温故知新」は、古いことを学んだうえで、新しい知識を発見する

2 とある「論語」の中で、孔子が師の資格として述べた言葉である。
「杞憂」は、無用の心配のことである。昔の中国にあつた杞の國の人々が、

天地が崩れたらどうしようかと心配したことからてきた言葉である。

(3) 1 「五里霧中」は、手さぐりで物事をすることであり、「暗中摸索」が同じ意味になる。「画竜点睛」は、物事を完成させる最後の仕上げのことと、「画

竜点睛を欠く」などと用いられる。「吳越同舟」は仲の悪い者どうしが一か

所に集まること、「四面楚歌」は味方かおらず孤立することである。
「五十歩百歩」は、大差がないことであり、「大同小異」が同じ意味になる。
「蠻雪の功」は、苦労して学問に励むこと、「漁夫の利」は争っている当事者

角
註

- (4) (3) (2) (1)

「鬻ぐ」は現代語で「売る」。「盾と矛とを鬻ぐ者」の言葉は、1行目に二か所ある「誉めて曰はく」の直後の部分で、それぞれ盾と矛を自慢しているものである。三つ目の会話文の直前に「或ひと曰はく」とがあるので、ここだけが違う人物の言葉である。「或ひと」は、「盾と矛とを鬻ぐ者」が盾と矛を自慢する言葉を聞き、質問をしたのである。

「誉めて」は、「自慢して」などとしてもよい。

盾の堅さを自慢している言葉である。「(どんなものでも) 突き通せるものは

1 鳥と貝が争っているところに、漁師がどちらも捕まえてやろうとして網を投げている絵である。「二者が争っている間に、第三者が利益を手に入れる」という意味の「漁夫の利」であることを捉える。

2 人が猿に向かって左手は「三」、右手は「四」を示している。ここから、「餌のどちの実を朝三つ、夕方四つやろう」という言葉に猿が怒ったので、「それなら、朝四つ、夕方三つやろう」と言つたら喜んだという故事からきた

「朝三暮四」を表したイラストであることを捉える。「目先の差にこだわり、結果的には同じであることに気づかない」という意味。

112 ~ 114 ページ

定期テスト得点 UP 問題

大それた恥ずべきことをした

例 盗みをはたらくことの罪の重さに気がついたから。〈26字〉

(3) (2) (1) 例 「僕」は、クジャクヤママユを右手に隠し、その手をポケットに突っ込込んだまま移動するうちに、潰してしまった。〈32字〉

それをすつ

盗む・潰す

イ・オ〔順不同〕

例 エーミールにチョウの収集家としての自負を否定されたから。〈28字〉

イ

1 聞の中

2 Aア Bエ

解説

(1) 「下劣」とは、品性が劣つていてこと、正しい道を踏んでいないこと。
5~6行目に、「大それた恥すべきことをした」とあり、自分のした行為を、品性の欠けた誤ったものだと認めていることが分かる。

(2) 直前の段落に書かれた心情を理解する。良心に目覚めた「僕」は、盗みをした自分は「下劣なやつ」で、また、ものを盗んだという行為は「大それた恥すべきこと」と悟っている。つまり、自分のしてしまった「盗みをはたらく」という罪の重大さに気がついたのである。

語彙 盗みをはたらくような罪深い人間だと思われたくないから。〈27字〉

(自分自身がどのように見られるかを気にしているのではない。自分が盗みをしてしまったことの罪深さに気づいたという内容に直す。)

(3) 冒頭の「チョウを右手に隠して、僕は階段を下りた。」以降の、「僕」の動きを捉える。チョウを隠していた手を、「上着のポケットに突っ込んだまま、ゆっくりと歩き続けたが、ふと、自分の犯した罪を意識し、エーミールの部屋に引き返すため、階段を駆け上がった。しかし、エーミールの机の上にチョウを置いたときにはチョウは潰れていたのである。

記述ポイント チョウを隠した右手を「ポケットに突っ込んだまま」という要素は不可欠である。

(4) クジャクヤママユを潰してしまったことに対する「僕」の気持ちは、第三段落に書かれている。この段落の最後の文にあるように、このチョウを元に戻すためなら何でもしようと思えるくらい、かけがえのないものだと思っていることが読み取れる。

(5) クジャクヤママユを最初から盗むつもりではなかったことと、クジャクヤママユを潰すつもりはなかつたこと、「僕」はこの二点を本当は伝えたかったのである。

(6) エーミールが「そんなやつ」と言って軽蔑しているのは、一つは「僕」が盗みをしたことである。もう一つは、53~54行目で「君がチョウをどんなに取り扱つているか、ということを見ることができたさ」と言つてのことから、チョウを乱暴に扱つて潰したことである。

(7) 直前の「君がチョウをどんなに取り扱つているか、ということを見ることができたさ」という言葉は、「僕」はチョウを收集しているくせにひどい取り扱いしかできないという意味である。それは、「僕」がチョウを大切に思う気持ちを自負していたことを否定するような言葉である。このことが、「僕」をひどく傷つけ、「喉笛に飛び」かかりそうになるくらい、「僕」を追い込んだのである。

(8) 「僕」が償いを申し出たことに對し、エーミールがどういう対応をしたかといふことから考える。エーミールは謝罪も償いの申し出も受け入れず、かといって罵ることさえせず、ただ、「僕」を眺めて軽蔑するだけだった。「僕」は、そ

んなエーミールの態度に耐えた。この経験が、「僕」に「一度起きたことは、もう償いのできないものだ」ということを悟らせたのである。

(9) 母は「僕」がどれほど苦しんでいるか理解している。それで、「僕」の傷ついた気持ちをいたわり、「根掘り葉掘り聞こう」とはしなかったのだ。

(10) 1 一度起きたことは償いができないということを悟り、「僕」は、やり場のない暗い気持ちに陥る。「闇の中」は、そんな「僕」の気持ちが反映された情景だと考えられる。

2 A 林さんの「その後の『僕』の人生に大きな影響を与えた」という言葉に着目する。チョウを粉々に押し潰すという行為は、チョウの収集に象徴される少年時代特有の「熱情」に、「僕」が決別することを意味していると考えられる。B エーミールに謝罪の言葉も償いの申し出も拒否された「僕」は、自分で自分を罰するしか罪を償う方法がない。よってチョウを潰すことは、自分を罰する意味もあったと推測できる。